

シンポジウム 2016 開催報告

7/6 公益社団法人日本化学会 化学会館にて開催

一般社団法人日本化学工業協会（日化協）が運営する《化学人材育成プログラム協議会》は、7月6日、化学会館において「化学人材育成プログラム協議会シンポジウム 2016」を開催しました。

シンポジウムでは、日化協の渡辺宏専務理事の開会挨拶に続いて、ご来賓として文部科学省高等教育局の常盤豊局長、経済産業省製造産業局の佐藤文一審議官のお二方よりご挨拶をいただきました。

基調講演では、東京工業大学名誉教授・元学長で国立研究開発法人科学技術振興機構顧問の相澤益男氏より、「未来の創造に向けて ～鍵を握る科学技術人材の育成～」と題して、大変革の時代におけるグローバル競争に勝ち残るための大学改革の方向性や、“未来創造”の鍵を握る、想像力と挑戦力に富んだ科学技術人材の育成の必要性についてお話いただきました。



また、化学人材育成プログラム協議会の会長を務める石飛修日化協会長（住友化学株式会社会長）は、化学産業界からのメッセージとして、日本の化学産業の現状課題と未来社会に向けての方向性について説明し、化学産業界が求める高度理系人材像を提示するとともに、人材育成における様々な課題を産学が共有し、連携して対応していくことの重要性を述べました。

さらに、高度理系人材の育成において先進的な取り組みを行っている5つの大学院専攻から、高度な専門性に加えて俯瞰力と独創力を備え、グローバルに活躍するリーダーの育成を目指す、独自の工夫をこらしたカリキュラムを紹介していただきました。

最後に、当協議会化学産業教育ワーキンググループの浦田尚男主査（三菱ケミカルホールディングス株式会社取締役）より、2017年度開講に向けて準備を進めている「化学産業論講座」の取り組み内容について説明しました。



当日、会場には約80名の産学官関係者が集い、化学産業の将来を担う高度理系人材像の育成の重要性を再確認するとともに、化学人材育成プログラムのさらなる発展に期待が集まりました。